

**PATENT ABSTRACTS OF JAPAN**(11)Publication number : **02-200610**(43)Date of publication of application : **08.08.1990**

(51)Int.Cl.

**A61K 7/00**(21)Application number : **01-016185**(71)Applicant : **NICHIREI CORP**(22)Date of filing : **27.01.1989**(72)Inventor : **TAKEDA KAZUO  
ARA TAKASHI****(54) COSMETIC CONTAINING ACEROLA ESSENCE****(57)Abstract:**

**PURPOSE:** To obtain a cosmetic abundantly containing natural L-ascorbic acid having various physiological and pharmacological effects such as reinforcing of tissue or blood capillary or inhibiting of melanin formation and having excellent stability containing essence extracted from fruit of acerola.

**CONSTITUTION:** Essence extracted from fruit of acerola containing various useful substances such as various vitamins, organic acids, minerals, flavonoid glycoside and pectin in a large amount, especially content of L-ascorbic acid is  $\geq 1.0\%$  in average as large as not seen in other fruit, etc., and having excellent stability is mixed with cosmetic as raw material of cosmetic to afford the cosmetic having whitening effect by tyrosinase activity-inhibiting effect of L-ascorbic acid, activating effect to skin and blood capillary and also water-retentive effect or astringent effect by amino acid, organic acid, sugar and pectin, and furthermore also utilizable of scent of the above-mentioned essence.

## ⑫ 公開特許公報(A) 平2-200610

⑤Int.Cl.<sup>5</sup>

A 61 K 7/00

識別記号

K  
H  
X

庁内整理番号

7306-4C  
7306-4C  
7306-4C

⑬公開 平成2年(1990)8月8日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭発明の名称 アセロラエキスを含む化粧品

⑰特 願 平1-16185

⑱出 願 平1(1989)1月27日

⑲発明者 武田 和夫 東京都目黒区東が丘2-8-18

⑲発明者 荒 剛史 千葉県柏市大室1086-58

⑲出 願 人 株式会社ニチレイ 東京都千代田区三崎町3丁目3番23号

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

アセロラエキスを含む化粧品

## 2. 特許請求の範囲

アセロラの果実より抽出したエキスを含有することを特徴とした化粧品。

## 3 発明の詳細な説明

## &lt;産業上の利用分野&gt;

本発明はマルビギア属(Malpighia)の果樹であるアセロラ(Acerola,学名Malpighia glabra L.)の果実より抽出したエキスを含む化粧品に関する。本エキスは天然のL-アスコルビン酸を他の果実エキスよりも多量に含むことが大きな特徴である。

## &lt;従来の技術&gt;

従来、L-アスコルビン酸には組織や毛細血管の強化、メラニン形成阻害、あるいはコラーゲンの形成等、数々の生理・薬理作用が知られており、化粧品の分野でも頻繁に利用されている。一方、近年は化粧品原料の一成分として天然物が好まれる傾向が強くなっている。

これまで、天然L-アスコルビン酸を含有する植物抽出液はレモンエキス、リンゴエキス等いくつか知られているが、L-アスコルビン酸濃度を0.1%以上含有している物は殆ど見られない。また、エキス抽出の操作過程で一部分解、減少するのが常である。あるいは濃縮によって高L-アスコルビン酸含有のものを得ようとする、更に分解が進むほか、共存する成分も高濃度となってメイラード反応等の化学変化が加わり、黒褐色になるという欠点があった。

## &lt;発明が解決しようとしている問題点&gt;

本発明は、新鮮なアセロラ果実由来のL-アスコルビン酸を豊富に含み、かつ安定性にすぐれたアセロラエキスを原料として配合した新規な化粧品を提供することを目的とする。

## &lt;問題点を解決するための手段&gt;

アセロラ果実は各種ビタミン、有機酸、ミネラル、フラボノイド配糖体、ペクチンなど、各種の有用物質を含有しているが、なかでもL-アスコルビン酸の含有率が平均1.0%以上あり、(表-1

参照)他の果実等にみられ、程度多く、安定性にも優れている。

表1-アセロラ果実成分分析結果

分析試験項目	結 果
水分	91.8%
たんばく質	0.6%
脂質	0.1%
繊維	0.4%
灰分	0.3%
糖質	6.8%
リン	13.9mg/100g
鉄	0.17mg/100g
カルシウム	9.7mg/100g
総カロチン	0.83mg/100g
総アスコルビン酸(総ビタミンC)	1.58%

この事から、多量に含まれているL-アスコルビン酸を失うことなく抽出し、同時にどのような化粧品に使用する場合にも、この果実の持つL-アスコルビン酸を安定化させている成分構成を出来るだけ活かす形にする抽出方法が必要である。以下に、抽出方法を2～3の例をもって述べる。

#### <抽出法1>

新鮮なアセロラ果実またはその凍結品を水洗し、

-3-

の溶媒にて再抽出し、ペクチン等、一部の成分を除去した後、同様にして充填したもの。このエキ스는溶媒の組合せを調整することで含有成分、特にL-アスコルビン酸を、種々の化粧品に配合するとき、その中で最も安定性のよい条件を選ぶことができる。

#### <作用>

抽出法1～3で得られたエキスは、いずれも水溶性であり、経時的にも、加熱によっても沈殿が非常に発生しにくい性質をもっている。また、pHの変動に対しても良好な安定性を示し、化粧品原料として容易に使用できる。本エキスを配合した化粧品は、L-アスコルビン酸の持つ、チロシナーゼ活性阻害作用による美白効果、皮膚及び毛細血管の活性化が得られる。また、本エキス中のアミノ酸、有機酸、糖、ペクチンによる保湿効果及び収斂効果が得られ、さらに本品の持つ芳香性を利用することができる。

次に化粧品への使用を実施例によって示すが、本発明は本例のみに限定されるものではない。

-5-

れを汙過、デカンテーション等により、沈殿を除去し、清澄な上清を得る。これをそのまま、あるいは活性炭で脱色を行った後、静置し、その後生じた沈殿を除去した後、孔径0.22μmのメンブレンフィルターにて汙過後、無菌充填を行う。このエキスは、大部分の水溶性成分が含まれており、多くの有用成分が存在する。

#### <抽出法2>

抽出法1と同様にして得られた懸濁液に、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、プロピレングリコール、エタノール、水などの溶媒を単独で、あるいはその混合物を抽出溶媒として加え、よく攪拌した後、低温下にて浸漬抽出する。次に、この懸濁液を汙過、デカンテーション等により、清澄化し、孔径0.22μmのメンブレンフィルターにて汙過後、無菌充填を行う。このエキスは、使用する溶媒を変えることにより、目的に応じたものを選ぶことができる。

#### <抽出法3>

抽出法1あるいは2にて抽出したエキスを更に他

-4-

#### <実施例1>化粧水の製造方法

グリセリン	5.0%
プロピレングリコール	4.0
オレイルアルコール	0.1
ポリオキシエチレンソルビタンモノラウリン酸	
エステル	1.5
ポリオキシエチレンラウリルエーテル	0.5
エタノール	10.0
香料	0.1
着色料	適量
防腐剤・紫外線吸収剤	適量
抽出法1～3で得られたエキス	0.3～5.0
精製水にて、全量を100%とする。	

#### <実施例2>乳液の製造方法

ステアリン酸	0.2%
セタノール	1.5
ワセリン	3.0
ラノリンアルコール	2.0
流動パラフィン	10.0
ポリオキシエチレンモノオレイン酸	

-6-

精製水にて全量を100%とする。

エステル	2.0
香料	0.5
防腐剤・酸化防止剤	適量
グリセリン	3.0
プロピレングリコール	5.0
トリエタノールアミン	1.0
抽出法1～3により得られたエキス	0.3～5.0
精製水にて全量を100%とする。	
<実施例3> クリームの製造方法	
ステアリン酸	2.0%
ステアリンアルコール	7.0
還元ラノリン	2.0
スクワラン	5.0
オクチルドデカノール	6.0
ポリオキシエチレンセチルエーテル	3.0
親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
香料	0.3
防腐剤・酸化防止剤	適量
プロピレングリコール	5.0
抽出法1～3により得られたエキス	0.3～5.0

出願人 株式会社ニチレイ